



2024年3月12日

日本鉄道労働組合連合会

能登半島地震緊急カンパを実施

日本赤十字社を通して被災地に届ける

JR連合は、2月1日に四国・高松の地で開催した第36回中央委員会において実施した「令和6年能登半島地震カンパ」で集約された67,731円について、日本赤十字社が受け付けている「令和6年能登半島地震災害義援金」に全額を寄付した。

3月7日、窓口となる日本赤十字社東京都支部振興部の松田茂雄顧問に対し、JR連合の荻山市朗会長から義援金への寄付を行ったことを報告した。



令和6年能登半島地震による七尾線の主な被災状況

※1月5日時点の状況です。



本年1月1日に発生した令和6年能登半島地震においては、多くの組合員の実家や自宅が被害を受けるとともに、鉄道施設にも甚大な被害が発生した。特に、JR西日本エリアの七尾線での被害は大きく、組合員の懸命な復旧作業により、2月15日に全線が開通したところである。

この間、JR連合としては、連合が実施する『令和6年能登半島地震』に対する緊急カンパに70万円、交運労協が実施する『令和6年能登半島地震』へのカンパに15万円を、それぞれ「JR連合カンパ口」から支出することを決定してきた。

なお、「JR連合カンパ口」とは、例年実施している「連合・愛のカンパ」にて集約した金額から、今回のような災害等が発生した場合に実施される緊急カンパに備えて一定額を積み立てているものであり、本年は集約された2,953,550円のうち、200万円を「連合・愛のカンパ」へ寄付し、残る953,550円について「JR連合カンパ口」へ積み立てることについて、2月18日に実施した第9回執行委員会で確認している。集約にご尽力いただいた組合員・組合役員の皆様に改めてお礼を申し上げる。



ただ、近年は「連合・愛のカンパ」の集約金額が減少傾向にあり、災害が頻発化・激甚化する中、このままでは都度行われる緊急カンパに対応できなく可能性がある。組合員の皆様におかれては、引き続き、より一層の取り組みをお願いしたい。

